

防災対策学習体験会

避難所において個人のプライバシーが守られ、快適な避難所生活が送れるための対策について学習し、実際に体験してみましょう。



災害が起こるたび、学校の体育館等に設置される避難所の劣悪さが指摘されます。段ボールベッドや仕切りが導入されるなど改善もみられますが、まだまだ十分とは言えず避難所で命を落とされる方も多いです。障害者や高齢者など要配慮者にはさらに不便や我慢が強いられ、災害関連死のリスクも高くなります。

せっかく助かった命を災害関連死で失わないよう、要配慮者が快適に生き延びられる避難所生活が実現すれば、それは被災者全員にとっても快適な避難所になるはずです。我慢を強いられ命をすり減らすのではなく、体調を整え、復興に向けて体力・気力を回復できる“ファーストクラスの避難所”とは何か、一緒に学び、体験してみませんか。

避難所で私たちは生き延びられるか

2025年11月15日(土曜)

13時～16時30分

場所

らいふふいーるど753研修室
(京都市伏見区竹田北三ツ杭町17番地)



参加費
無料

定員
40名

締切
11/10



お問い合わせ
お申し込み先

村田恵子 miyabi-kyotojapan@docomo.ne.jp
繁 周作 syougaisya.bousai@gmail.com

共 催：京都頸髄損傷者連絡会・障害者防災会議

協 力：佛教大学保健医療技術学部理学療法学科（要請中）

13:00	開会あいさつ
13:05	学習体験① ・防災対策の現状と課題、避難所の実態。 ・インスタントハウス・TKB48について学ぶ。 ・インスタントハウス・段ボールベッドを組み立て体験する。 討議 ※ TKB48：トイレ・キッチン・ベッドを、発災後48時間以内に設置する目標
14:25	休憩
14:40	学習体験② ・ファーストクラスの避難所生活について学ぶ。 ・インスタントハウスに折りたたみベッド・家具等を設置し、ファーストクラスの避難所生活を体験する。 討議
16:00	まとめ（参加者からの意見、感想）
16:20	閉会あいさつ



村田メール



繁 メール

詳細

避難所で私たちは生き延びられるか

ひとたび災害が起こると誰もが危機的状況に陥ります。障害者や高齢者など要配慮者にとってはさらに過酷な現実が待っています。ベッドから降りられない、呼吸ができなくなる、上の階に上がれない、環境の変化でパニックになる、個別避難計画が作成されておらず避難の目途が立たない、避難所までの移動が大変である、そのような方が数多くおられます。そして、やっとの思いで学校の体育館等に設置される避難所にたどり着いたとしても、避難所環境の劣悪さ故に、健康を害し命が失われることもあります。

防災対策にはいろいろな課題がありますが、この学習体験会は避難所での生活においてどのような配慮が必要かについて考えたいと企画しました。

災害が起こるたび、海外に比べて日本の避難所の劣悪さが指摘されます。段ボールベッドや仕切りが導入されるなど改善もみられますが、まだまだ十分とは言えず避難所で命を落とされる方も多いです。要配慮者にはさらに不便や我慢が強いられ、災害関連死のリスクも高くなります。

せっかく助かった命を災害関連死で失わないよう、要配慮者が快適に生き延びられる避難所生活が実現すれば、それは被災者全員にとって快適な避難所になるはずです。我慢を強いられ命をすり減らすのではなく、体調を整え、復興に向けて体力・気力を回復できる避難所とはどういものなのでしょうか。

これまでのような雑魚寝ではなく、きちんとプライバシーが守られ家族単位で生活できるインスタントハウスやドームハウスといったものが提案され、避難所で実際に導入され始めています。今回インスタントハウスを実際に体験し私たちにとって避難所で必要なものを考えることで、誰にとっても快適で過ごしやすい避難所のあり方が見えてくるのではないかでしょうか。そのような考えから、プライバシーを守るハウスだけでなく、生活に必要な家具や物品も備えた最上級（ファーストクラス）の快適な避難所のあり方について、一緒に学び、体験してみませんか。

